

通機会 Web ページ

<http://www.tsukikai.mce.uec.ac.jp/>



通機会 Facebook ページ

<https://www.facebook.com/uec.tsukikai>



会長就任にあたって

産業技術総合研究所 中野 禪 (1987 年卒)



今期の通期会ですが、いろいろな面で変革が求められています。大学の組織改革により、学科単位から類への移行が行われ、その結果機械工学系学科も明示的には消滅してしまったのです。大学院の専攻としては残っていますが、機械系学科の先生方も複数の類

に分散してしまい、実体としての学科が無くなる事態となりました。いままで行ってきた大学の学科への新入生からの入会ができない状態となり、新規の入会もわずかな人数だけになっています。ご存知の通り新入生の入会金が永年会費となっている通期会ですので、新入生が入らない、即ち、活動費もままならない、という状況となっています。通機会をどうするのか？という重大な局面が生じているのです。そこで、今期は、「通機会をどうしていくのか」、という検討が重要課題となっています。存続するのか、廃止するのか、存続ならどのような形が良いのか、とても難しい内容です。2018 年 6 月 23 日の時点での会員数は 6,731 人であり、おそらく全員一致での方針決定は無理と思われませんが、次の総会で何らかの方向性を出せるか、がテーマとなりました。通機会に思い入れのある方も、無い方もいると思います。いろいろなご意見をお寄せいただければと思います。通機会って「どんな会？」「何をしているの？」「どんなメリットがあるの？」初心に帰った考えをできればと思っています。

通期会の運営は学内外の幹事の皆様を中心に動いています。年に数回の幹事会やイベントとでの話し

合いです。4 年という期間が短いのか、長いのかはわかりませんが、多くの意見を伺い、検討する時間としてはあまりないという印象です。とくに皆様へ働きかけられる機会はほぼ無い、と思います。皆様の方からアクションを起こしていただければ、幸いです。調布祭や研究室の OB 会等、大学へのお越しの際や、ちょっと思い出したときにでも、電子メール (staff@tsukikai.mce.uec.ac.jp) や Facebook ページで、多様なご意見をお寄せいただければと思います。今期は若い世代の幹事も新しく参加してくださっています。卒業生で大学に残っている先生方もいますので、忌憚なくご意見を寄せていただければと思います。大きく「通機会の存廃について」「なんのための、誰のための通機会か」「通機会に求めるもの」というテーマをベースに考えていこうと思います。

今期の会長という大役、どう考えても力不足の感ですが、卒業以来研究職としてわからないことを考える仕事に従事してきた経験から、何かの形、方向性を見いだせるようにしていきたいと思えます。皆様のご協力をお願い申し上げます。

第 10 回通機会総会開催報告

副会長 森重 功一 (1993 年卒)

2018 年 6 月 30 日 (土)、第 10 回通機会総会が電気通信大学東 5 号館 241 教室において開催され、すべてが滞りなく終了しましたので、その概要を報告させていただきます。

通常総会

通常総会は 14 時に第 9 期副会長の結城宏信氏 (1989 年卒) が、益田正氏 (1970 年卒) と下条誠氏 (1973 年卒) に通機会功労賞が贈られることを報告した後に開会を宣し、議長に松村隆氏 (1987 年卒) を選出して 29 名の出席のもとで議事が進行しました。はじめに山田實氏 (1976 年卒) より第 9 期会長

通機会だより 第 44 号の主な内容

会長就任にあたって…1、第 10 回通機会総会開催報告…1、通機会だより送付方法の変更について…3、通機会会則…3、通機会第 10 期役員…4、総会参加者からの寄稿…4、就職支援活動報告…5、第 9 期通機会決算・第 10 期通機会予算…6



退任の挨拶があり、続いて結城氏より第9期の活動報告が、金森哉吏氏（1987年卒）より第9期の会計報告が、三宅基夫氏（1985年卒）より第9期の会計監査報告が行われた後、結城氏より通機学会則第4条と第6条の改正についての説明が行われました。これらの報告や説明に対する質問や意見はなく、すべて満場一致で承認されました。

次に、役員改選に移り、中野禅氏（1987年卒）が第10期会長に、瀧澤正和氏（1981年卒）と植村幸生氏（1989年卒）が第10期監査に選出されました。この結果を受けて中野氏より会長就任の挨拶があり、副会長として大串浩司氏（1992年卒）と筆者が指名され、最後に学内幹事が指名されました。

続いて、筆者より第10期は通機会だよりを2019年より紙媒体から電子媒体の配布へ移行すること、通機会の今後のあり方について検討を始めることが提案され、金森氏より第10期の予算案が説明されました。これらもすべて満場一致で承認され、14時47分に議長が閉会を宣言して終了しました。



特別講演会

総会から続いて行われた特別講演会では、まず、機械知能システム学専攻の船戸徹郎准教授が、「動作解析と力学モデルに基づくヒトと動物の運動制御系へのアプローチ」という題目で、神経制御系にお

ける運動生成の仕組みと疾患の仕組みについて、ヒトや動物の運動解析と制御系の評価からアプローチしている研究について講演されました。

続いて、i-パワードエネルギー・システム研究センターの澤田賢治准教授が、「制御システムセキュリティ：制御工学で機械システムを守る事は出来るのか？」という題目で、世界が制御システムのセキュリティ解決に苦勞している状況とその理由を解説しながら、講演者が関わる制御システムのセキュリティ技術動向について講演されました。

どちらの講演も大変興味深い内容で、聴講者の反応もよく、予定の時間を超えて活発な意見交換が行われました。



懇親会

17時からは場所を大学会館2階の生協食堂に移し、懇親会が32名（OB・教員28名、学生4名）の参加者で開かれました。中野新会長と機械知能システム学専攻長の金子修教授の挨拶の後、教員OBを代表して石川晴雄氏（1972年卒）による乾杯の発声で会が始まりました。途中、専攻教員や卒業生の近況報告や梶谷誠先生のスピーチなどをはさみながら、終始和やか雰囲気ですべては進み、19時前に筆者による一本締めでお開きとなりました。



重要なお知らせ

通機会だよりの送付方法の 変更について

通機会だよりは、創刊号（昭和 56 年 11 月発行）から第 43 号（平成 30 年 5 月発行）まで、年に 1 回発行（総会開催年は 2 回発行）し、学内の機械系学生と教員の皆様へは学内で配布し、卒業生・修了生・退職された教員の皆様へはクロネコメール便にて送付してまいりました。現在、通機会会の会員数は 7 千名弱となり、卒業生・修了生の皆様へ通機会だよりを発送する準備や経費が通機会会の大きな負担となっています。

そこで、従来のクロネコメール便による紙媒体の通機会だよりの送付を廃止し、第 45 号から電子メールによる配信に切り換えることになりました。具体的には、通機会だよりの PDF ファイルのダウンロード先の URL を電子メールでお知らせ致します。今後、通機会だよりの配信を希望される会員の方は、下記の URL から電子メールアドレスなどの必要事項のご登録をお願い致します。また、電子メールアドレスを変更する場合は、再度のご登録をお願い致します。ご不明点等がございましたら staff@tsukikai.mce.uec.ac.jp へお問い合わせください。



通機会だよりの発行をお知らせする
メールアドレスの登録フォーム：

URL : <https://forms.gle/xmns4v3PjWfzJ1Z49>

通機会会則

第 1 章 総 則

- 第 1 条 本会は通機会と称する。
- 第 2 条 本会は会員の連絡と親睦をはかることを目的とする。
- 第 3 条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 会報その他の発行及び配布。
 2. 講演会、見学会、親睦会の開催。
 3. その他本会の目的を達成するのに必要な事業。
- 第 4 条 本会は事務所を電気通信大学機械知能システム学専攻内におく。
- 第 5 条 この会則に必要な通則は幹事会にて決める。

第 2 章 会 員

- 第 6 条 本会の会員は次の通りとする。
1. 電気通信大学通信機械工学科、機械工学科、機械工学第二学科、機械制御工学科、知能機械工学科の卒業生ならびに同専攻科もしくは同大学院同専攻、機械知能システム学専攻の修了生。
 2. 電気通信大学知能機械工学科ならびに同大学院同専攻、機械知能システム学専攻に在学する学生。
 3. 上記各学科もしくは専攻の現教職員及び旧教職員。
 4. その他幹事会で適当と認めたもの。

第 3 章 役 員

- 第 7 条 本会に次の役員をおく。
- 会長 1 名、副会長 2 名、幹事 若干名、監査 2 名、クラス委員 各クラス 1 名。
- 第 8 条 会長及び監査は総会において会員中より選出される。
- 第 9 条 副会長及び幹事は会長が委嘱する。
- 第 10 条 クラス委員は各クラス毎に選出する。
- 第 11 条 会長は本会を代表し、副会長は会長を補佐する。
- 第 12 条 幹事は幹事会の議に沿って会務を処理する。
- 第 13 条 クラス委員は各クラスと幹事会との連絡を密にする。
- 第 14 条 監査は会務を監視し総会に報告する。
- 第 15 条 役員の任期は次の通常総会までとする。

第4章 総会及び幹事会

- 第16条 本会の最高決議機関を総会とする。
第17条 総会はその議案、日時、場所を会員に周知したうえ会長が招集する。
第18条 総会の議事は出席者の過半数によってこれを決める。
第19条 通常総会は4年に1回開く。
第20条 会長が認めた時または、会員の50名以上から請求があった時は臨時総会を開く。
第21条 幹事会は会長が必要と認めた時に招集する。

第5章 会計

- 第22条 本会の経費は終身会費、寄付金、その他をもってこれにあてる。
第23条 本会の会計はその収支決算を通常総会において報告しなければならない。
第24条 終身会費は金壹万円とする。

第6章 付則

- 第25条 本会の会則の変更は総会の決議を必要とする。
第26条 本会則は昭和56年3月7日より施行する。

- 付記 平成2年6月23日一部改正。
付記 平成6年5月14日一部改正。
付記 平成14年5月18日一部改正。
付記 平成18年5月27日一部改正。
付記 平成22年6月26日一部改正。
付記 平成30年6月30日一部改正。

通機会第10期役員

(2018～2021)

- 会長 中野 禪 (87年)
副会長 大串 浩司 (92年)、森重 功一 (93年)
監査 瀧澤 正和 (81年)、植村 幸生 (89年)
〈学外幹事〉
1964年 大賀 寿郎、川本 宏
1965年 下河 利行、灰塚 正次
1969年 坂田 芳幸
1970年 島野 圭司、益田 正
1973年 下条 誠、中山 良一、丸田 芳幸
1976年 山田 實
1978年 狩集 二郎、小柳 洋
1979年 中川 滋
1980年 宇野 英男、紀井 敏

- 1981年 瀧澤 正和 1983年 寺井 一郎
1984年 伊藤 和彦 1985年 三宅 基夫
1987年 中野 禪 1989年 植村 幸生
1990年 加藤 和弥 1992年 大串 浩司
1993年 伊藤 秀樹、上野 卓也
1994年 川邊 栄二 1995年 小倉 紀男
1997年 高橋 聖次 2001年 巻島 和好
2002年 大熊 俊司 2004年 藤澤 隆介
2005年 根 和幸 2006年 金子 誠
2008年 森田 憲司
2010年 岡本 謙、村上 祐一、平塚 友望
2014年 京島 快 2015年 本多 寿矢
〈学内幹事〉

- 1964年 梶谷 誠
1972年 石川 晴雄
1987年 金森 哉吏 (会計)、松村 隆 (会員管理)
1989年 結城 宏信 (庶務)
1993年 森重 功一 (副会長・通機会だより)
2005年 田中 基康 (Web ページ)
2009年 新竹 純

※ 記載年は学部卒業年

◇◇総会参加者からの寄稿◇◇

「通機会」の存続か廃止か…

植村 幸生 (1989年卒)

2018年6月30日、通機会総会に参加した。総会そのものはつつがなく進行し終了した。今までは「通機会をどうやって存続していくか」という財政/継続の課題が大きかったが、第10期では「通機会をこれからどうするか」という存続/廃止の課題を検討する事になる。

その後の特別講演会は豪華2本立て。舩戸徹郎准教授の「動作解析と力学モデルに基づくヒトと動物の運動制御系へのアプローチ」は、神経制御系における運動生成の仕組みをヒトや動物の運動解析と制御系の評価からアプローチしている研究。「リズム」という観点で制御を研究するものであり、歩行にはたくさんのリズム機構がある事、脳の中にはリズムを処理する専用回路がある事などを分かり易く説明して下さり、斬新で興味深い研究と感じた。続いての澤田賢治准教授「制御システムセキュリティ：制御工学で機械システムを守る事は出来るのか？」は、「情報(オフィス)系ネットワーク」と「制御系ネットワーク」のセキュリティ観点から見た違い、制御システムセキュリティ対策の研究。オフィス系では出来ているセキュリティ対策は制御系では容易に出来ない事、制御システムコンピュータのOSが非常

に古い事、電力網へのサイバー攻撃例、制御システムセキュリティの事後対策モデルなどを説明していただいた。こちらも興味深い内容であり、産業界に直結する研究と感じた。

懇親会は、前回に比べ参加人数が少ない印象を受けたが、現役学生から第二の人生を歩んでいるOBまで、様々な年代の方々と交流する事が出来て有意義であった。梶谷先生のおっしゃった通り、通機会は単なる大学OB会ではなく、現役学生から退職された教職員の方々まで含めた会員が交流出来る稀有な団体である。しかし大学改組により「学科」という枠が無くなり新規会員の勧誘が困難な事、10数年後には通機회를運営しておられる学内幹事の方々が全員退職され、現状の運営方法は不可能になる事などの課題を解決しない限り、通機会は消滅してしまう可能性は否めない。「通機会だより」を読んでおられる方々から、良き知恵を授けていただければ幸いである。

通機会総会に出席して

東木 達彦 (1985 年卒)

通機会総会、講演会および懇親会に参加しました。特別講演会では、船戸先生がヒトと動物制御系へのアプローチに関する講演、澤田先生は制御システムセキュリティに関する講演でした。普段聞けない最先端の技術の講演でしたが、分かりやすく興味深いご講演でした。懇親会ではお世話になった懐かしい諸先生の方々と懇談し、学生時代の思い出が走馬灯のようによみがえりました。また、懇親会に参加していた学生さんたちは、未来の大きな夢に向かって目を輝かせて語っていました。

私は現在、東芝メモリ株式会社の半導体プロセス技術研究開発センターで技監(シニアフェロー)として半導体の微細化を行うリソグラフィ技術の研究開発をしております。現在の半導体メモリの回路線幅は15nmで将来さらなる微細化が求められています。この微細な回路を形成する技術をリソグラフィといいます。入社以来リソグラフィの研究開発を行い、特に半導体メモリの進化に貢献してきました。私は入社当時、半導体リソグラフィにおける露光装置などを開発してきました。機械工学はモノづくりの土台を築く重要な領域です。機械工学は電気・材料・情報・機械などをインテグレーションするデザイナーであるとかつて電気通信大学で学びました。現在はナノインプリントリソグラフィ技術という次世代半導体の微細加工技術の研究開発を行っています。大学で学んだ機械工学及び機械工学の考え方は会社に入った後、今でも非常に役にたっています。

電気通信大学は、専門分野により分類した学科という枠組みを再編し、緩やかにまとめた3つの「類」に生まれ変わったということを知り驚きでした。枠組みは変わったとしても、電気通信大学機械工学はますます発展して欲しいと思っています。通機会総会の懇親会ではこの枠組みの変化から通機会の存続をどうするかという議論が語られていました。OBとしては、是非、通機会は継続し、産学がもっとダイナミックに交流できる場として発展していくことを切望しています。

今回の集まりはとても楽しかったですが、残念なことは学生の人数が少なかったことです。通機会はOBと学生が交流できる貴重な場です。学生さん描いている企業と実際の企業には大きなギャップがあることでしょう。我々企業側はもっと大学に最先端技術の研究開発の取り組みをもっとアピールしていかねばならないと日々痛感しています。今回の開催には多くの学生さんが参加してくれることを期待します。かつて、先生方やOBが私をサポートしてくれたように、OBとして学生と企業の架け橋として役にたつてあげられたらと思います。今後の通機会の発展を祈念いたします。

◆◆◆ 就職支援活動報告 ◆◆◆

平成30年度は現場で活躍されている卒業生を講師としてお招きして講演会を実施しました。125名の学生の参加がありました。

通機会就職支援2018「人生設計第一」

日時:平成30年7月30日(水)14:40-16:10

場所:東5号館241教室

題目:人生設計の一例@Deprecated

講師:仲村滋夫氏(2011年知能機械工学科卒業,2013年情報システム学研究科博士前期課程修了)

所属:鹿島建設株式会社 技術研究所
先端メカトロニクスグループ

当日は、大学・学科の選択理由から、進学理由、就職活動の考え方と実際の活動内容、入社してからの様々な苦勞話とサバイバル方法について、熱くご講演いただきました。また、質疑応答では、匿名で質問することのできる sli.do (<https://www.sli.do/>) を利用し、学生がスマホやパソコンから入力した質問をスクリーンに投影して、会場全体で共有し、盛り上げながら、いろいろと議論をすることができました。また、その後個別の質問にも対応していただきました。仲村様にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

—編集係より—

会員の皆様からの記事を募集しております。卒業生から現役学生へのメッセージなどお寄せいただければ幸いです。ぜひ右記宛先までお送り下さい。

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1
電気通信大学 機械知能システム学専攻内
通機会だより担当 森重